

狼煙は本来、焚き火に杉や松の葉をくべたり、あるいは文字が示す通り狼の糞を燃やして煙を発生させたようですが、今回行った『鹿背山城のろし大実験』では市販の発煙筒を使用しました。以下は今回の実験で『のろし』を揚げる際に使用した資材です。

①発煙筒

メーカー：株式会社 K and K

<http://www.kandk-kk.co.jp/htop.htm>

製品および個数：白色（大）4本 ，黄色（大）4本

※1回の「のろし」毎に2本ずつ使用。

発煙筒の仕様：白色（大）寸法φ53mm×h175mm 、発煙時間約5分

黄色（大）寸法φ53mm×h175mm 、発煙時間約3分

※メーカー公表値

②鯉のぼり用のポール（先端に滑車付）

先端に滑車の付いた長さ9メートルのポールを鹿背山城主郭に生えた木にロープで固定。先端の滑車には事前に④のロープを通して両端を結び、大きな輪にしておく。



③ポール固定用ロープ

木にポールを固定するのに十分な長さとお本数。3m×3本程度。

④発煙筒引上げ用ロープ（20m）

ポール先端の滑車に通し、大きな輪にした後、⑤を結びつける。
発煙開始後、ロープを操作して発煙筒を引上げる。



⑤発煙筒ホルダー（自作）

カセットコンロ用ガスの空き缶3本を加工して作製。
発煙筒2本を同時に使用できる。



⑥バケツおよび水（10L程度）

発煙後の発煙筒容器は熱を持っているので、水を入れたバケツに入れて回収。

⑦保護具（手袋・帽子・マスクなど）を『のろし』揚げ担当者が各自で用意

⑧資材の応急修理に備えて工具・金具類（ラジオペンチ、針金）など。

鹿背山城なんでも知ろう

連続講座 第6回・鹿背山城のろし大実験

鹿背山城からの狼煙を見よう！

鹿背山城の狼煙は南山城のどこから見えるのか？見えないのか？
当会会員が中世の城郭跡や集落から観察した情報と、みなさんが持ち寄る情報を手がかりに、鹿背山城の位置や古の情報伝達について考えたいと思います。

開催日時：平成27年2月1日（日）

のろし大実験：1回目	午前10時00分頃	白色の発煙筒を使用
	午前10時10分頃	黄色の発煙筒を使用
2回目	午前11時00分頃	黄色の発煙筒を使用
	午前11時10分頃	白色の発煙筒を使用

報告会と講演会： 午後13時30分から鹿背山城のろしの観察結果の報告会と、中井均氏（滋賀県立大学教授）による講演会を行います。是非、会場にお越しの上、観測結果を教えてください。

定員と参加費：50名（午後12時以降に先着順）・無料

報告会場：木津川市役所北別館（市役所のすぐ北の建物）

観察地点は参加者の皆様の自由です。鹿背山城の位置（木津川市鹿背山鹿曲田）を事前に確認の上、見える場所・見えない場所を探して下さい。

鹿背山城なんでも知ろう連続講座の実施予定

第7回 平成27年2月22日（日） 鹿背山城跡 見学会

『木津の文化財と緑を守る会』会員の案内で鹿背山城跡のほぼ全域を見学していただきます。

ご参加には事前のお申し込みが必要です。
お申込方法や、当日の集合場所・時間などは
ホームページ等で順次発表いたします。

.....

来年度も講演会や見学会などを予定しております。
講演会や見学会のなど、ご希望やアイデアがありましたら、是非
公式ホームページからお知らせ下さい。

<http://kizu1978.info/index.html>
または、「木津の文化財と緑を守る会」で検索

.....

『木津の文化財と緑を守る会』では新規会員を募集しています。
鹿背山城以外にも、木津の歴史や文化について、グループや個人で
様々な学習会や研究活動を行っています。
活動への参加は自由、年会費1,500円、木津の方以外でも大歓迎！
ご興味がある方は是非、**FAX**（0774-71-8131）やホームページから
ご連絡下さい。お待ちしております。

主催 木津の文化財と緑を守る会

狼煙大実験「鹿背山城から狼煙上げる」

2015/02/01

狼煙の意義とおもしろみ

中井 均(滋賀県立大学)

◆狼煙の歴史

- ・狼煙、烽火、燧 ⇒ 『令義解』に記載された「烽」【ぶう・とぶひ】
※『令義解』とは ⇒ 淳和天皇が清原夏野らに勅して養老令を解釈したもの

◆中国の狼煙

- ・秦漢時代 ⇒ 辺境の防衛基地の緊急連絡に多用される
「のろし」⇒ 烽燧【ほうすい】
- ・唐の制度 ⇒ 30里ごとに1烽燧【通信速度：一昼夜2000里】
※1里＝唐尺で450m：24時間で900km、平均速度37.5km

◆戦国時代の狼煙と鐘

- ・「のろし」⇒ 狼煙・狼火
「合図の煙」（『太平記』）、「相図火煙」（『応仁記』）、「相図火」（『播州佐用軍記』）
- ・「夜はかがりと名付、昼はのろしといふ」（『北條五代記』）
- ・「ノロシハカガリヲ焼ク、木ヲツミテオク也。用ノ時火ヲ付ル。狼ノフンヲクブル也。狼煙ケブリ上ヘ能立ノボル也。」（『築城記』）
- ・「狼糞三分一 松葉四分一 藁大」（『軍侍用集』）
- ・「金山の御城にて例の相図の鐘を御つかせ相な候へば、」（『新田由良家伝記』）
- ・水主城(京都府城陽市)の場合 ⇒ 「今夜城中之東南不舉烽、不鳴鐘矣、少康耳、」（『鹿苑日録』明応8年(1499)9月26日条）
- ・甲賀郡中惣(滋賀県甲賀市)の場合 ⇒ 「一、他所与同名之衆弓矢喧嘩之時、於鐘鳴者、惣庄之百姓等、至堂僧迄、悉得道具ヲ持、可罷出者也」（『大原同名中惣与掟条々』永禄13年(1570)）

◆戦国時代の狼煙の実態

- ・井楼矢倉を構え、その上部に跳釣瓶のような棹を付け、下した跳釣瓶の先端に鉄の釜を釣っている【若神子城(山梨県)】
- ・発掘調査によって検出された狼煙 ⇒ 三ツ城跡(広島市)【主郭の土坑：炭化物含黒色土と焼土が互層となる埋土】

◆よみがえる戦国の狼煙

- ・「近江中世城跡琵琶湖一周のろし駅伝」の開催 ⇒ 鎌刃城跡(滋賀県米原市)の発掘調査がきっかけとなったまちおこしのイベント【鎌刃城跡は2005年3月に国史跡に指定される】
- ・2002年に琵琶湖を取り巻く18ヶ城でスタート ⇒ 昨年で13回目【ほぼ毎年40ヶ所の城跡が参加】
- ・まちづくりの連携 ⇒ 行政枠を超えた民力【近江中世城跡保存団体連絡会 → 通称「近江のろしの会」】
- ・「第8回ふるさとイベント大賞(文化・交流部門)」を受賞(2004)、知事の点火式、彦根築城400年祭

◆全国に広がる狼煙事業

- ・琵琶湖のろし駅伝 ⇒ 岐阜県や福井県の参加
新潟県とともに「第1回北国のろしリレー」の開催(2008年)
- ・第24回国民文化祭での城跡フェスティバル「戦国の城を結ぶのろしリレー」
⇒ 長野県境から大平洋岸までの城跡を狼煙で結ぶ【浜松市の大合併による市の一体化事業】
- ・戦国時代の狼煙実験から、城跡を活かしたまちづくりへ

資料⑤鹿背山城跡および全観察地の位置図



⑧口駒ヶ谷城館跡

⑨下粕城館跡

⑩稲屋妻成跡

⑪嵐ヶ城跡

⑫用任山寺

⑬和束町木屋

⑭上粕集落

⑮元並

木津川 鹿背山城跡

